

令和2年度 富山市高齢者総合福祉プラン地域懇談会 議事録
(8月18日(火) 大久保ふれあいセンター分)

1 日 時 令和2年8月18日(火) 午後2時～午後3時15分

2 場 所 富山市大久保ふれあいセンター1階 多目的ホール

3 参加者

【市民等】22名

【事務局】高畠福祉保健部次長、宮崎福祉保健部参事(保健所保健予防課長)、横山保健所地域健康課長、片山介護保険課長、土地長寿福祉課長、滝川大山地域福祉課長、原大沢野地域福祉課長

4 内 容

- (1) 次長あいさつ
- (2) 出席者紹介
- (3) 議 事

5 質疑応答

市民等

これからは人生100年時代と言われており、100年間生きるにはどうすればよいかと考える時代になった。今までの考え方を方向転換する必要があると思う。

例えば、老人クラブでいうと、定年制が薄らいでいき、その分働く人数が増えていく。そうすると、老人クラブではお世話をする人がいなくなっていくという状況が生まれる。

また、暇にしている高齢者は多く、忙しくさせることが必要である。家庭でお茶を飲んでいるだけではなく、もう一步踏み込んだ、おでかけ定期券やとほ活といったまちなかへ移動させるような運動の機会をつくり、忙しくさせることが必要である。

富山市には、高齢者を忙しくさせる施策や閉じこもりをさせない施策をお願いしたい。富山市では施策を講じていると思うが、より前向きに検討していただきたい。例えば、老人クラブのお世話する人をどのように確保するか、お世話する人たちがマンネリ化しないような時代に合った施策をお願いしたいと思う。

4月より地域包括支援センターに勧められとほ活を始めたが、とてもいいものだった。

事務局

ご指摘のとおり、動いていただいた方が健康を維持できる。元気に働いていただければ、医療費も少なくなり、市の財政も健全化する。

活力都市創造部で実施しているおでかけ定期券をはじめ、他部署とも連携し、健康なお年寄りを増やしていきたいと思う。また、地域のお世話をする担い手の

確保が難しいという意見もいただいたので、参考にして市の施策を進めていきたい。

市民等

富山市の介護施設の整備が高水準であるにもかかわらず、施設に入りたくても入れない方がいると聞いている。施設には要介護3以上でないと入ることはできず、要介護2以下は地域で面倒を見てほしいと言われている。例えば、サロン活動をしたり、公民館等を利用したりして面倒をみてほしいということだが、今後要介護2以下は地域で面倒をみなければいけないのか、それとも希望する方が施設へ入所できるように整備していく予定なのか、市の考えを聞かせてほしい。

事務局

施設の入所と介護度の関係についての指摘ですが、現在富山市の高齢者数は12万人であり、今後も高齢化及び重度化が進んでいくと推計される。このような状況下で、希望される方すべてが施設に入所できるということは現実的には難しい。

スライドでも示したとおり国では、福祉施設として位置付けていなかった有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅を福祉施設の役割を補完するものとして考えており、考えを変えてきている。

一方で、富山市では施設から在宅へ移行する施策を進めている。富山市では約630の居宅・訪問系の事業者がおり、事業者にもご協力いただき、それぞれの地域で必要なサービスをきめ細かく提供している。今後も施設、居宅、在宅、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅をそれぞれの方に応じて提供していきたい。

介護保険料は上昇しているが、介護保険制度全体をみながら検討を行っている。また、介護保険料は県内では高水準であるが、中核市と比較すると同水準である。富山市では、施設入所、居宅、在宅のバランスを取りながら、利用者や家族の状況に対応していきたい。

市民等

地域包括ケアシステムの構築は何年も前から言われていることであり、実際に構築する際には、サービス基盤や人的基盤が必要であると思うが、そろそろ具体的に構築していかなければならないのではないかと。富山市全体で構築することは難しいと思うので、どこかの地域でモデル的にシステムを導入することはできないか。

高齢になるとこれからの行く末が心配になってくる。現在活動しておられる高齢福祉推進員や老人クラブを活用して、地域包括ケアシステムの構築を進めていくことが必要だと思う。

南砺市は上手に進めていると思うので、参考にして進めていってほしい。

事務局

県内では南砺市が人口減も進んでいることもあり、地域包括ケアシステムを含め先進的に実施している。南砺市では、住民主体型サービスや健康マイスターなど

を実施している。富山市でも地域包括ケアシステムを進めていかなければならないと思っている。

地域包括ケアシステムは高齢者の話をしているが、国ではいろんな担い手を持つために障害者や児童などを含めて助け合っていこうという地域共生社会を進めていくことに力を入れている。

国の情報やいただいたご意見を参考に、老人クラブ組織率3割等といった富山市の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築を進めていきたい。

事務局

地域包括ケアシステムを構築するにあたり、在宅医療が重要となってくる。富山市ではまちなか総合ケアセンターで在宅医療専門の診療所をモデル的に併設している。在宅医療を担う医師を増やし、在宅医療を市全域に広げていきたいと考えている。

市民等

社協や民生委員の仕事を10年ほど行っているが、地域の中で支え、担う人材の育成と福祉の気持ちを持つ人が少なくなっていることが今問題だと思う。ここ10年、担い手の質・量ともに先細りになっていると感じている。

地域に関心がない人が増えているという現状を理解してほしい。また、今福祉に力を入れている人も高齢になってくる。このような現状を理解した上で、対策を考えていただきたい。

市民等

最近是在宅介護が重要視されてきているが、本当に対応できるかどうか心配に思っている。富山市では、在宅介護への具体的な対応はどのように考えているのか。地域福祉に対してはどのように対応しているのか。

昔、高齢化率が50%になると限界集落だということを聞いたが、我々も間近になってきていると感じている。市全体として平均30%ないから大丈夫だと考えているのであれば、危険だと思う。

事務局

スライドでも示したとおり今年の2月に在宅介護実態調査を実施した。今回は時間の関係で2つのみであったが、他にも在宅介護を巡る不安や悩みを答えていただいた。今後はサービス提供側である事業者にもアンケート調査を実施し、実態調査の結果や事業者アンケートの結果を参考に計画に反映させていきたい。

(以 上)